

報道関係者各位
プレスリリース
2026年7月24日
特定非営利活動法人 日本介護経営学会

「第2回 AI 分科会実践報告会」補足資料

■ 登壇者プロフィール ※プログラム・登壇者は変更になる場合があります。

林 俊宏 氏 【基調講演】 厚生労働省 大臣官房 審議官 (老健局・障害保健 福祉部担当)	厚生労働省入省後、社会・援護局、老健局等を経て現職。2040年問題を見据えた介護保険制度改革の立案・推進に携わる。中山間地域における介護サービス維持に向けた規制緩和とテクノロジー活用の政策方針を主導するとともに、AIを含むデジタル技術の介護分野への活用促進に向けた制度整備を担当
片山 洋平 氏 【特別講演】 アマゾン ウェブ サ ービス ジャパン合同 会社 パブリックセク ター技術統括本部 ヘ ルスケア&アカデミ ア技術本部 ソリュー ションアーキテクト	医療・ヘルスケア領域における生成 AI 実装やクラウド活用に関するセミナー登壇多数。技術面からヘルスケア分野のクラウド・AI 活用を支援し、介護・医療現場の DX を後押ししている。 医療情報技師の資格を持ち、医療機関を中心としたヘルスケア業界向けの AWS ソリューション構築・技術支援を専門とする。厚生労働省・経済産業省・総務省による医療情報ガイドライン（3省2ガイドライン）に準拠したクラウド設計や、生成 AI（Amazon Bedrock）を活用したカルテ自動作成・医療文書業務の効率化など、医療 DX の実践知見を AWS 公式ブログや AWS Summit Japan など継続的に発信。介護・医療現場を横断したクラウド・AI 活用の最新動向を紹介する。
CARISO 【政策発表】 介護系スタートアッ プ支援事業 powered by CARISO (厚生労働省・三菱 総合研究所)	厚生労働省が推進する介護テクノロジーの研究開発から実用化・保険適用・海外展開までを一気通貫で支援する事業。三菱総合研究所が事務局を担い、介護系スタートアップと専門家（サポーター）とのマッチングや各種セミナーを実施している。当日は担当者による政策プレゼンテーションと、厚労省ご推薦企業によるスタートアップ事例発表

宇井 吉美 氏 【政策発表・ARISO スタートアップ事例 発表】 株式会社 aba 代表取 締役 CEO	千葉工業大学在学中の 2011 年に株式会社 aba を創業。祖母の介護経験と特別養護老人ホームでの現場観察を契機に、においセンサーで排泄を非接触検知するシート型デバイス「Helppad（ヘルプパッド）」を開発。パラマウントベッドとの 8 年にわたる共同研究を経て製品化し、国内累計出荷台数 1,000 台超の実績を持つ。MIT テクノロジーレビュー「Innovators Under 35 Japan」（2021 年）、日経 xwoman「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2024」に選出されるなど、介護テック領域を代表する起業家として広く認知される。2025 年 12 月には高輪地球益ファンドをリード投資家とする資金調達を実施し、シンガポールを皮切りとするアジア展開を加速中。一般社団法人スタートアップ協会理事、日本ケアテック協会理事も務める。
歌川 英之 氏 【政策発表・ CARISO スタートア ップ事例発表】 BS Code 株式会社 取締役	BS Code 株式会社取締役。同社は 2024 年 10 月設立の介護・医療および農業領域に特化した AI スタートアップ。スマートグラスと生成 AI を融合した介護記録自動化サービス「NASRECO」を開発・提供し、音声によるハンズフリー入力・89 言語対応のリアルタイム多言語翻訳・AI 自動記録生成の 3 機能により、深刻な人手不足と記録業務負担の軽減を現場で実証している。厚生労働省が推進する介護系スタートアップ支援事業「CARISO」の推薦企業として、本会では CARISO スタートアップ事例発表に登壇。現場密着型の開発スタイルと社会実装の知見を共有する。
巻 裕子氏 【実践報告会 I】 オハナ・リハ株式会 社 代表取締役／おは なりハ ケアマネステ ーション管理者	理学療法士として約 15 年のキャリアを積んだ後、両親の病気や義親の介護、子育てを通じて得た「介護する側」の経験から、2021 年にオハナ・リハ株式会社を設立。理学療法士とケアマネジャーの専門性を併せ持ち、身体機能評価から生活支援まで一貫した支援を行う居宅介護支援事業所「おはなりハ ケアマネステーション」（茨城県つくば市・牛久市）を運営する。ケアプランデータ連携システムの活用など介護 DX 推進にも積極的に取り組み、日本ケアマネジメント学会第 26 回学術研究集会では「地域包括ケアを支えるケアプランデータ連携の実装条件―多職種調査からみた介護 DX 推進の課題―」を口頭発表。茨城県介護支援専門員協会理事も務める。
濱野 賢一 氏 【実践報告会 I】 社会福祉法人 桑の実 会 理事長	2008 年入職。2018 年に介護事業部にて「日本経営品質賞 奨励賞」を受賞。2021 年、理事長に就任。「ニーズを先取りしたサービス創造」を軸に、多角的な福祉事業を展開。現在は業界に先駆けて生成 AI などのテクノロジーを現場へ導入し、生産性向上とケアの質向上を両立する介護経営を実践・発信している。

鹿野 佑介 氏 【実践報告会Ⅰ 座長】 株式会社ウェルモ 代表取締役会長兼社長	一般社団法人日本ケアテック協会 会長。東京大学高齢社会総合研究機構 共同研究員。大企業向け ERP 導入コンサルタントを経て 2013 年にウェルモを創業。累計 56 億円調達し、AI 介護業務支援システム「ミルモシリーズ」を展開。年間約 4,000 事業所の AI 実装を行っている。また多数公職を兼務し介護テクノロジーによる介護保険法 DX を提唱している。
栄藤 稔 氏 【実践報告会Ⅰ 座長】 (大阪大学 先導的学際研究機構 教授／一般社団法人情報社会デザイン協会 代表理事)	元 NTT ドコモ執行役員・MP4 規格の創始者。現在は大阪大学特任教授として日本の DX 支援に従事 松下電器産業（現パナソニック）で MPEG 国際標準化を主導した後、NTT ドコモでは Apple との協業による MP-4 策定、音声 AI アシスタント「しゃべってコンシェル」の開発、みらい翻訳の設立などを牽引。 2017 年に大阪大学教授に就任し、現在はスマートシニアライフ研究センターを主宰して超高齢社会への AI・ロボット活用を研究・推進するほか、総務省「安心・安全なメタバースの実現に関する研究会」座長代理として AI・VR 倫理ガバナンスの策定にも携わる。技術・事業化・政策を横断する数少ない論客として、産学官連携による社会実装をリードしている。
大久保 亮 氏 【実践報告会Ⅱ】 株式会社 Rehab for JAPAN 代表取締役社長 CEO	作業療法士として介護現場でのリハビリ業務に従事した後、2016 年に Rehab for JAPAN を創業。科学的介護ソフト「Rehab Cloud」やオンラインリハビリサービス「Rehab Studio」を展開し、エビデンスに基づく科学的介護の実現と AI を活用した介護関連技術の研究開発を推進している。
無尽 洋平 氏 【実践報告会Ⅱ】 株式会社 ENBASE 代表取締役	訪問看護・介護・居宅介護支援などの現場に向けた、アンビエント AI（音声 AI アシスタント）ツールスタンド LM を開発・提供。生成 AI をはじめとするテクノロジーと人と人とのコミュニケーションを組み合わせ、多様な社会課題の解決に取り組む。
武藤 高史 氏 【実践報告会Ⅱ】 カイテック株式会社 代表取締役社長	エムスリー株式会社等を経て、2018 年にカイテック株式会社を設立。介護・医療・福祉領域に特化したスポットワークサービス「カイテック」等を展開し、2020 年経済産業省ジャパン・ヘルスケアビジネスコンテストグランプリ、2021 年総務大臣賞を受賞。介護人材不足の解消を目指し事業を推進している。
寺岡 正人 氏 【実践報告会Ⅱ】 株式会社ブルーオーシャンシステム 代表取締役	2010 年に同社を共同設立。静岡を拠点に、介護事業所向け記録業務支援パッケージシステムをはじめ、福祉・医療業界向けシステム開発を手がける。
宇田 淳 氏 【AI 分科会長／モデレーター】	滋慶医療科学大学大学院 医療管理学研究科教授 日本介護経営学会 AI 分科会長として、分科会の設立趣旨説明やパネルディスカッションのモデレーターを務める。

東野 定律 氏 【当学会理事】	静岡県立大学経営情報学部 経営情報イノベーション研究科 教授 実践報告会Ⅱの座長、総括を担当
田中 滋 氏 【当学会会長】	当学会 会長／埼玉県立大学 理事長 本会の開会挨拶・閉会挨拶を担当

<本件に関する報道機関からのお問い合わせ先>

日本介護経営学会 事務局（株式会社やさしい手 内）

E-mail : info@bmltc.jp URL : <https://kaigokeieigakkai.jp/>